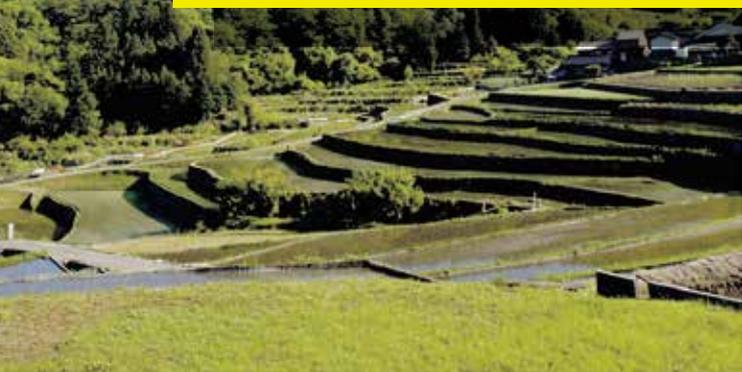




第1章

わたしたちのまち 「安芸高田」



安芸高田市がどのようにしてできたのか調べよう。また、安芸高田市の土地，交通，自然について学ぼう。



1 たんじょう 誕生！「安芸高田市」

小さな町や村が一緒になって市になることのよさについて考えましょう。



時代	明治	大正	昭和	平成
年	明治2年(1868) 明治4年(1871) 明治5年(1872) 明治6年(1873) 明治7年(1874) 明治8年(1875) 明治11年(1878) 明治25年(1892) 明治27年(1894) 明治29年(1896) 明治32年(1899) 明治37年(1904) 明治38年(1905) 明治40年(1907)	大正元年(1912) 大正2年(1913) 大正3年(1914) 大正4年(1915) 大正12年(1923) 大正14年(1925)	昭和8年(1933) 昭和12年(1937) 昭和16年(1941) 昭和18年(1943) 昭和19年(1944) 昭和20年(1945) 昭和21年(1946) 昭和25年(1951) 昭和26年(1952) 昭和30年(1955) 昭和31年(1956) 昭和35年(1960) 昭和42年(1967) 昭和48年(1973) 昭和54年(1979)	平成4年(1992) 平成14年(2002) 平成16年(2004)
全国の出来事	版籍奉還 廃藩置県 地租改正	日清戦争 郡制開始 日露戦争	第一次世界大戦 関東大震災 普通選挙法成立	サンフランシスコ平和条約
広島・安芸高田の出来事	広島県が大小区制を導入 高田郡は第六大区 高田郡に「選出所」をおく(現在の警察署) 高田郡内八か所に「郵便取扱所」をおく(現在の郵便局) このころより郡内各地に「学舎」がつくられる(現在の小学校)	各村に村会を開設する 各村に住民選挙によって選ばれた戸長をおく 戸長役場が始まる 大小区制の廃止 高田郡役所を吉田村におく 吉田町が始まる 市町村制開始 高田郡は合併により五十九村から二十六村になる 高田郡内初の消防組「吉田町消防組」設立 高田郡内初の産業組合「米原信用販賣購買生産組合」設立 (現在の農協)	「広島東洋カーブ」誕生 秋町が双三郡に移る 栗屋村が双三郡に移る 吉田病院設立 向原町が始まる	高田郡六町合併協議会が始まる 「サンフレッチェ広島」誕生 中国自動車道 三次〜千代田間 開通 白木町が広島市と合併 高田郡は七町から六町になる 高田郡内初の信号灯がつく 八千代町が始まる 白木町が始まる 高宮町が始まる 甲田町が始まる 美土里町が始まる 三江南線 三次〜式敷間 開通

どうして安芸高田市ができたのかな？



安芸高田市役所とクリスタルアージュ(吉田町)

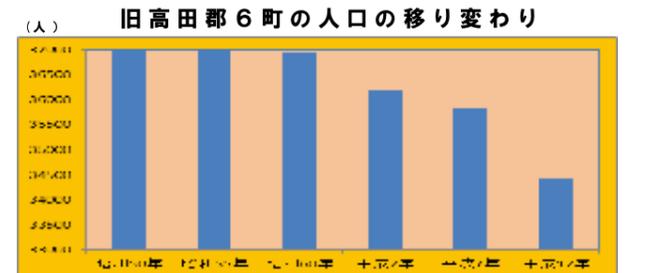
「安芸高田市」の始まり

安芸高田市はもともと吉田、八千代、美土里、高宮、甲田、向原に白木町を加えた計7町で構成され、「高田郡」と呼ばれていました。昭和48(1973)年に白木町が広島市と合併し、安佐北区となってからは6町となりました。平成に入ると、日本中の市町村が合併して大きな町や市をつくるようになりました。そこで高田郡6町も合併することになり、平成16(2004)年3月1日、安芸高田市が誕生しました。安芸高田市のようにいくつかの町が集まって市になったのは県内では初めてです。

市になることのよさ

これからの時代は、「その町の仕事はその町で行うのがよいだろう」と、国や県がしていた仕事をそれぞれの町に任せようになりました。すると仕事量が増え、小さな町の職員数では、全部の仕事ができにくくなりました。また、人口が減り、町に入ってくる税金も少なくなるので、たとえ町民のくらしのためになることでも、どうにもできないことが多くなりました。そこで、もっと大きく強くしようというのが「合併」です。高田郡に住んでいる人々が安心してくらせるまちをつくるのが大きな目的でした。

(年表作成 / 編集委員会)



(編集委員会作成)

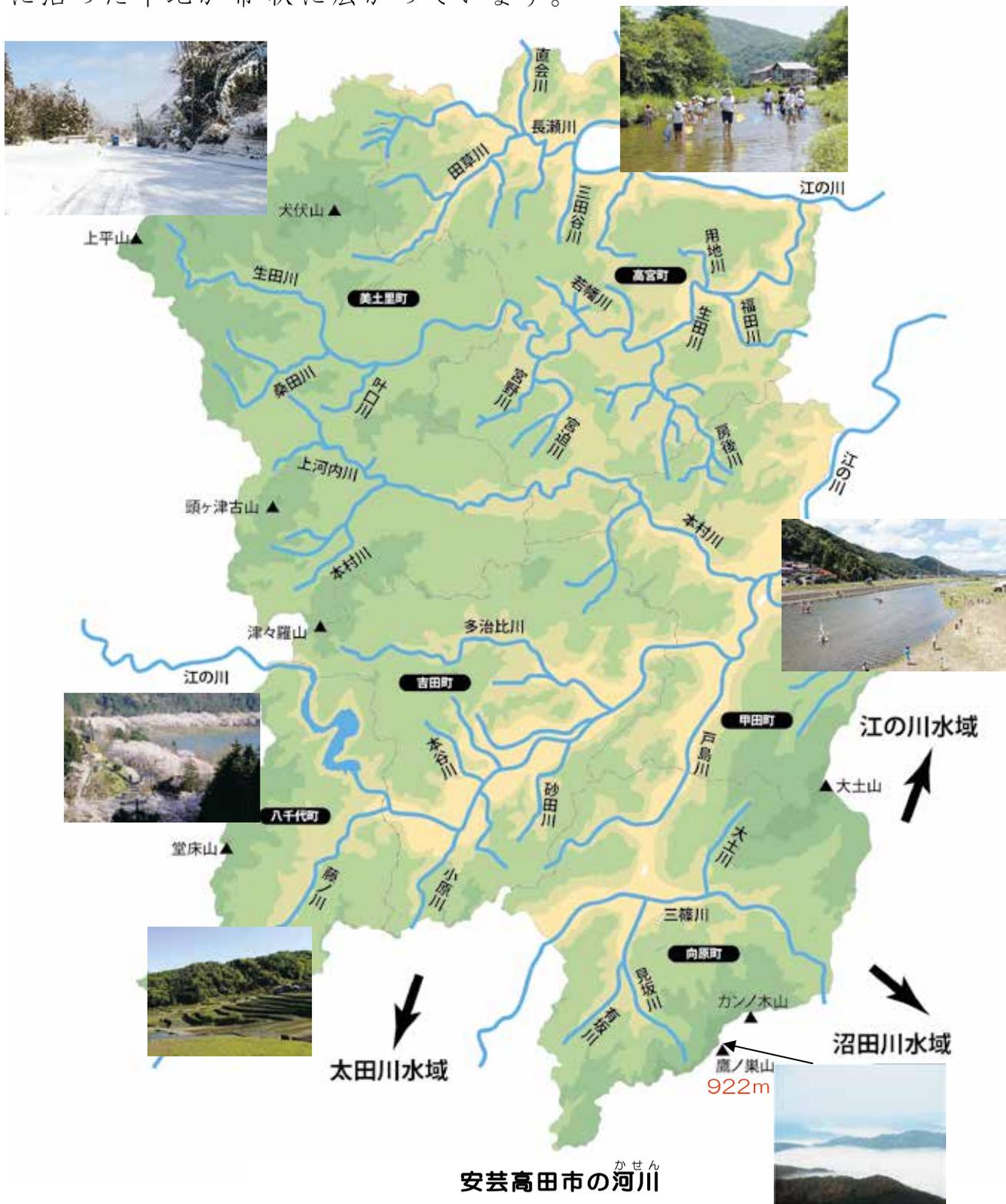
市長さんの話

安芸高田市は「人がつながる田園都市 安芸高田」を将来像にかけ、人が集い育つまち、安心・安全にくらせるまち、地域資源を活かしたまちづくりをすすめていきます。

安芸高田市 市長 浜田一義

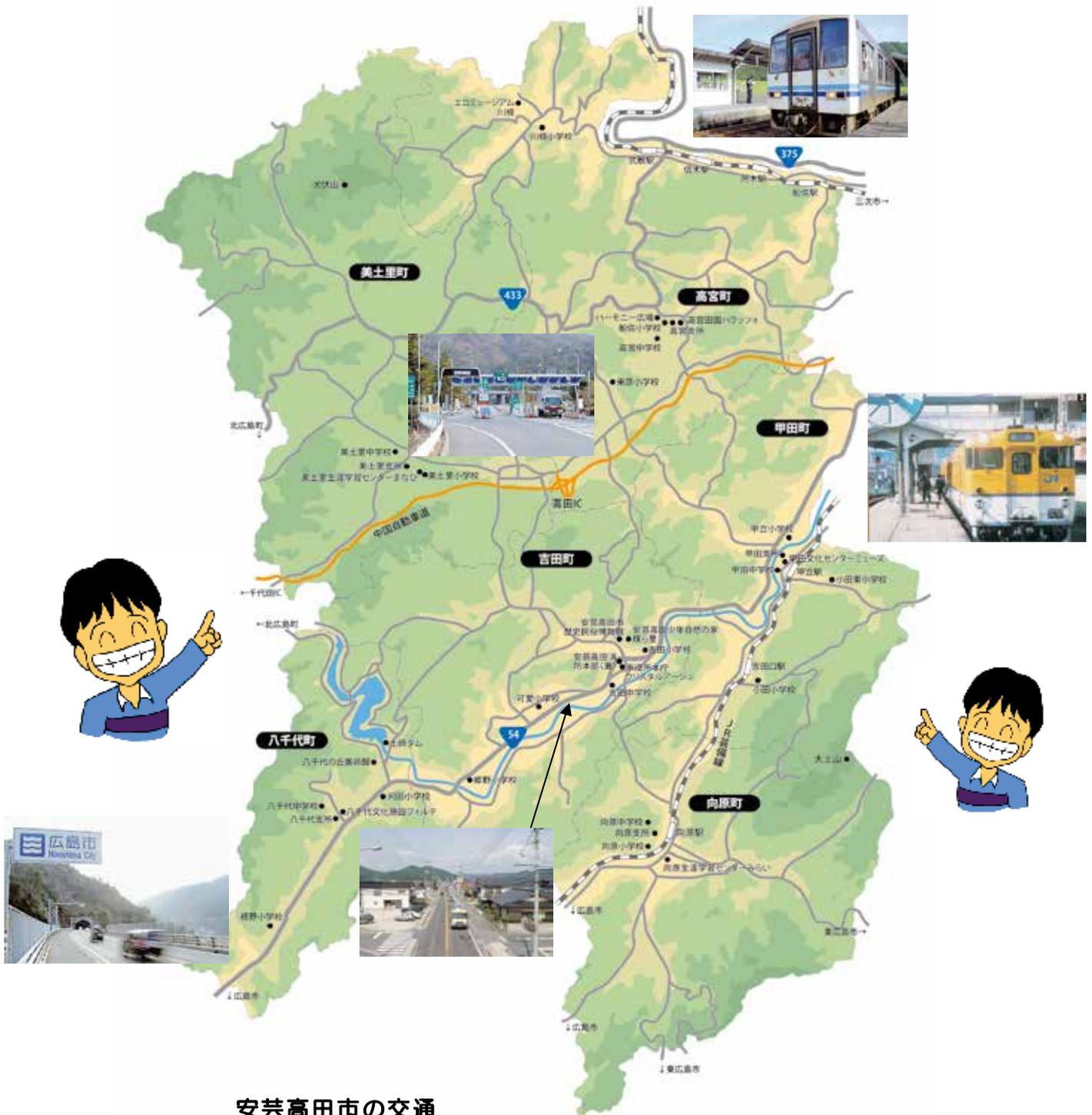
2 安芸高田市の土地のようす

安芸高田市には、高く^{けわ}険しい山はみられませんが標高^{ひょうこう}700mから900mを超える^こ犬伏山、^{いぬぶし}大土山、^{おおつちやま}鷹の巣山などの山々に^{たか}囲まれています。安芸高田市で一番高い山は、向原町にある鷹の巣山（標高922m）です。市内面積の80%を^{しんりん}森林が占めており、起伏の小さな^{きふく}丘陵と河川に沿った^そ平地が^{おびょう}带状に広がっています。



3 安芸高田市の交通のようす

安芸高田市は、広島市と備北地域の中心都市三次市との間に位置します。市内を横断する中国自動車道に高田インターチェンジがあります。また、広島と松江を結ぶ国道54号と市南部にJR芸備線がほぼ並行して走っています。市北部には、JR三江線が走っています。そのほか国道433号、主要地方道吉田邑南線（県道6号）、広島三次線（県道37号）など山陰と山陽を結ぶ幹線道路が走っています。



安芸高田市の交通

4 安芸高田市の自然

自然の豊かな安芸高田市には、特徴的な地形や天然記念物などがあります。みなさんの地域にはどんなものがあるか調べてみましょう。



■ 分水嶺（八千代町上根，向原町戸島）



分水嶺の標識（八千代町上根）



分水嶺の標識（向原町戸島）

地表に降った雨などの水は高いところから低いところへ流れます。安芸高田市には、2つの分水嶺があります。

分水嶺とは、地面に降った雨水がそれぞれ反対側に流れる境界線のことです。隣り合っている川の流れを分ける境界のことです。

向原町戸島にある「泣き別れ」は、水田の中にあります。これより北側の水は、江の川（可愛川）に流れこみ日本海へ注ぎます。南側は、三篠川を経て太田川に流れ込み瀬戸内海に注いでいます。さらに、八千代町上根にも平地での分水嶺があります。国道54号沿いには、分水嶺がある場所に標識が設置されていて、分水嶺のようすがよくわかります。

実際に分水嶺の場所を訪れ、どんなようすが調べてみよう。



■ 甲立礫層 (甲田町上甲立)

礫をたくさん含んだ地層の様子がとてもよくわかります。6年生の理科学習で役立ちます。



礫とは、小さい石。こいし。粒が2mm以上の岩片。



甲田町椽地～下甲立間の市道のそば標高約300mのところに約15mの厚さで礫層が地表に出ています。

この礫層は、安芸高田市周辺に広がる地層のことで甲立にあるものが最も模式的であるため、昭和28年広島大学今村教授によって「甲立礫層」として紹介されました。年代

は、今から約100万年前の新生代第三紀のものです。

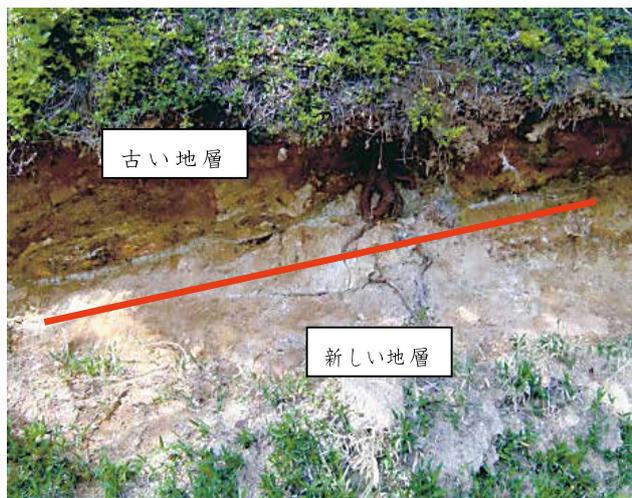
この地に見える礫の大きさは3cmから10cm程度のものがたくさんあります。

■ 国指定天然記念物 船佐山内逆断層帯 (高宮町佐々部)

この船佐衝上断層は、県北部一帯に広がっている備北層群の泥岩層と、その上側に不整合に乗っている甲立礫層の上に、図1に示したように古い花崗岩が押し上げられ、乗り上げています。

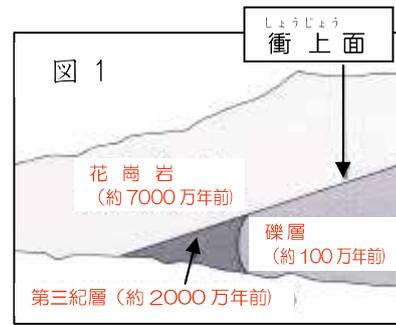
上の花崗岩と、泥岩層、甲立礫層との境界面には粘土層がはさまれていて、さかいが断層であることを表しています。

この衝上は、数十万年前、このあたり一帯の地層が横からの強い圧力で押され、激しい地殻変動があったことを示しています。また、



船佐山内逆断層

中国山地を隆起させ、瀬戸内海を陥没させた洪積世（258万年前から1万年前）の地殻が動いたこととも深い関係があり、とても貴重な資料とされています。



新しい地層の上に古い地層が押し上げられて断層ができました。

ことばの説明

衝上断層：上側の地層が下側の地層に対してゆるい角度でずり上がってできた断層のこと。

泥岩：海や湖・沼の底などにつもった泥（粘土）が、固まって岩石となったもの。

断層：地下の地層や岩に力が加わって割れ、その面に沿ってずれて食い違いができた状態をいう。

■ 県指定天然記念物 出店権現のウラジログシ（美土里町生田）



ウラジログシは、西日本の暖かい土地に広く生えています。

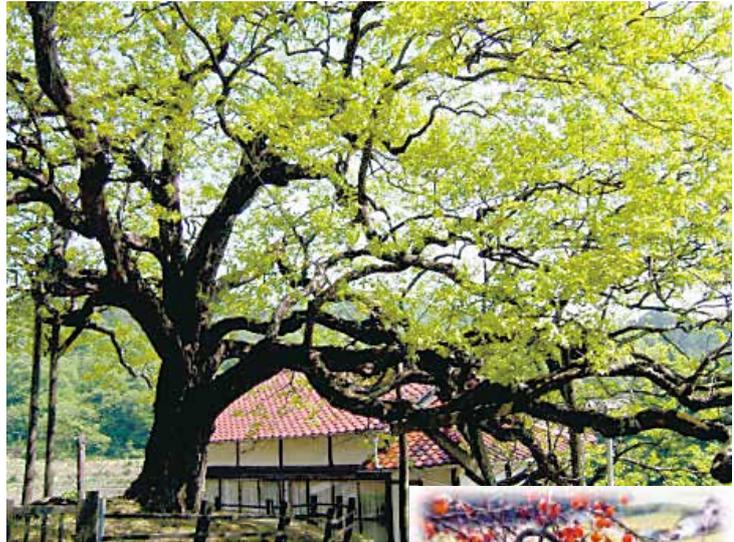
他の常緑広葉樹に比べ、内陸部のより高い地域にまで生えています。この木は、高さ約19m、幹の周りには、7mをこす巨木です。大小6本の幹に分かれ、寄せ植えて1本の木になった老木とみられています。木の幹

にはムラサキシキブ、ジャノヒゲ、フユツタ、ニンドウ、トラノオシダ、ノキシキブなどの低い木や草が着生しており、広島県内でも名木の一つになっています。

■県指定天然記念物 佐々部のカキノキ（高宮町佐々部）

この木の高さは 12m，幹の周りは 2,31mで，柿の木とは思えないほどの巨木です。現在も秋になるとたくさんの実をつけています。

安芸国（現在の中国地方）では，江戸時代（1716～1736年）に渋をしぼるため柿の木を植樹したと伝えられているところからすれば，樹齢おおよそ260年と考えられます。



■県指定天然記念物 唯称庵跡のカエデ林（甲田町上甲立）

「唯称庵」は，1822年，豪農三上安秀（屋号：安国屋）が浄土宗本願上人を招いて，この場所に四間半の庵を建てて，唯称庵と名をつけて住ませたことに始まります。

1823年，唯称庵主本願上人が京都の高尾よりカエデをとりよせ植えたものと伝えられています。本村川の川土手に約100mにわたって美しいカエデの林は，県史跡五龍城跡のふもとを彩っています。秋には，地域の振興会が「カエデまつり」を開き，たくさんの観光客でにぎわいます。



美しい紅葉が楽しめるのも地域振興会の皆さんが手入れをされているおかげですね。



■市指定天然記念物 おおそうたしつげん 大澤田湿原（美土里町生田）

おおそうたしつげん 大澤田湿原は、いぬぶしとうげ 犬伏峠付近、
標高 650m にあります。湿原の全長は、約 400m で、幅は
広いところで約 50m にもなります。このあたりは、平坦な
地形になっていますが、ややくぼんだ所に水がたまって
きた湿原です。

この湿原には、57 種類もの植物が確認されています。こ

のうち保護する上で重要な植物が 3 種類、広島県で絶滅するおそれのあるものが 1 種類、国立・国定公園特別地域の中の指定植物が 14 種類あります。

このように大澤田湿原は、湿原特有のとても貴重な植物や昆虫類の重要な生息地にもなっています。



■市指定天然記念物 くんらく かたくりの花群落（向原町長田・坂寺山）

かたくりの自生地は、向原町長田川之内地区と向原町坂寺山地区の 2 ヲ所にあります。

かたくりは、ユリ科の植物で 4 月初旬に花が咲きます。

花は、花茎の先に一つ花がつき 4.5cm くらいで紫色をしています。下側を向いて咲く 6 枚の花びらは、日中は、開いてそり返り、夕方にはすぼみ約 2 週間咲き続けます。

寒冷地を好むかたくりが、標高 200m の温暖な人里に群落をつくっているのは珍しいです。春には、かたくりの花を見るために多くの人を訪れにぎわいます。



花がとてもきれいに咲きます。みなさんも訪れてくださいね。



安芸高田市には、まだまだたくさん豊かな
でんえん
田園の安らぎがあります。調べてみましょう。

